



# 子育て伴走「だいじょうぶ！」通信 No. 11

～みんな大切 笑顔あふれる家庭とこども園に～



R 5. 7. 1 2 やすぎこども園 園長 福島朗博

## ◆園風景から

○6月17日(土) 保護者会総会と保育参観 たくさんのご参加ありがとうございました

保育ではお子さんと一緒にお楽しみいただけましたでしょうか。各クラスの子どもの笑顔満載な様子です！お父さんお母さんと一緒に嬉しそうな気持ちがうんと伝わってきますね。



ひかり組  
いろんな感触を  
楽しみました！



ほし組  
新聞紙でいろんな  
遊びができるね！



にじ組  
トトカカも見てね  
ブームの絵本だよ



つき組  
スライム作って  
ダイナミックに



そら組  
歯磨き親子指導で  
磨き残り仕上げ中

## ○「こころるバースデー講座」 ～大切ないのち 生まれてきてくれてありがとう～

今年も島根県助産師会バースデープロジェクトのご協力で、助産師さんによる出前講座「いのちの楽習会」を開くことができました。そら組(4・5歳児)さんとつき組(3歳児)さんを対象に、保護者の方は1歳から年長さんまでのお父さんお母さんが5名参加くださいました。40名の子どもたちは一生懸命、出産劇を見たり心音を聞いたりして、周りから祝福されて生まれてきた幸せを感じとったようでした。講座の詳しい内容は、昨年度の園長だより6号(11月)に譲り、参加された保護者さんのご感想がとても素敵でしたので、紹介させていただきます。



うちの子は講座の際、じっとしていなくて、まだ少し早かったのかなと思いつつ、それでも何かしら感じてくれていたらいいなと思いながら帰りました。夜になって、お腹をさわって「ママ、ここに赤ちゃんいる？」と聞いてきて「よしよしするね。」とさすり、自分から私にタオルケットをかけて「あったかくしてね。とったらダメよ。」と言うので、なんか急にお兄さんになった気がして驚きました。とてもよい経験になりました。(つき組 母)

助産師さんのわかりやすい話に真剣に視聴できました。一年一年と生きる大変さや当たり前ではない日常生活の大事さを見直せるよい機会になりました。性に関しても、男性がどう女性を理解するか。また子どもに伝えることの難しさもあるが、自分なりに伝えたいと思いました。男性・父親を対象にした講座も開催してほしいです。(そら組 父)

子どもたちがとても熱心に話を聞いていたのが印象的で、またエコーで心音を聞く機会もないのでとても有意義だったと感じました。出産についての内容とばかり思っていたら、子どもの性教育にも結びついていたので、参考になりました。仕事と子育て、家事に追われる日々で、余裕がない時はつい冷たい態度をとってしまうことがあるので、生まれた時の写真を見ながら、今の「日々追われる生活」からふと立ち止まって、子どもへの接し方に新しい気持ちで向き合えるような気がします(そら組 母)

我が子は、なかなか子宝に恵まれない私たち夫婦にとって待ちに待った待望の子であったので、今回受講して、妊娠が判った時の気持ち、毎回の妊婦健診の時の気持ち、出産の時に「オギャー」という産声を聞いた時の気持ち…忘れてはみせんでしたが、改めて走馬灯のように蘇ってきて涙が出そうになりました。妊娠も出産も本当に奇跡で、生きているのは当たり前じゃないということ、一人一人大切な存在ということ、もう少し理解できるようになったら我が子に伝えていきたいと思いました。とてもよい講座だったので、ぜひとも我が子が対象年齢となる年度もあると嬉しいです！(ほし組 母)



家族の誕生日のお祝いはみんなで大切な時間にしたいと改めて思いました。ふだんから小さい時(赤ちゃん)の写真を見るのが好きでよく見ているが、これからはその時の様子なども話をするので、「大切にされている♡」「ぼくのことがダイスキなんだ♡」と思えるような時間にしたいと思います。(そら組 母)

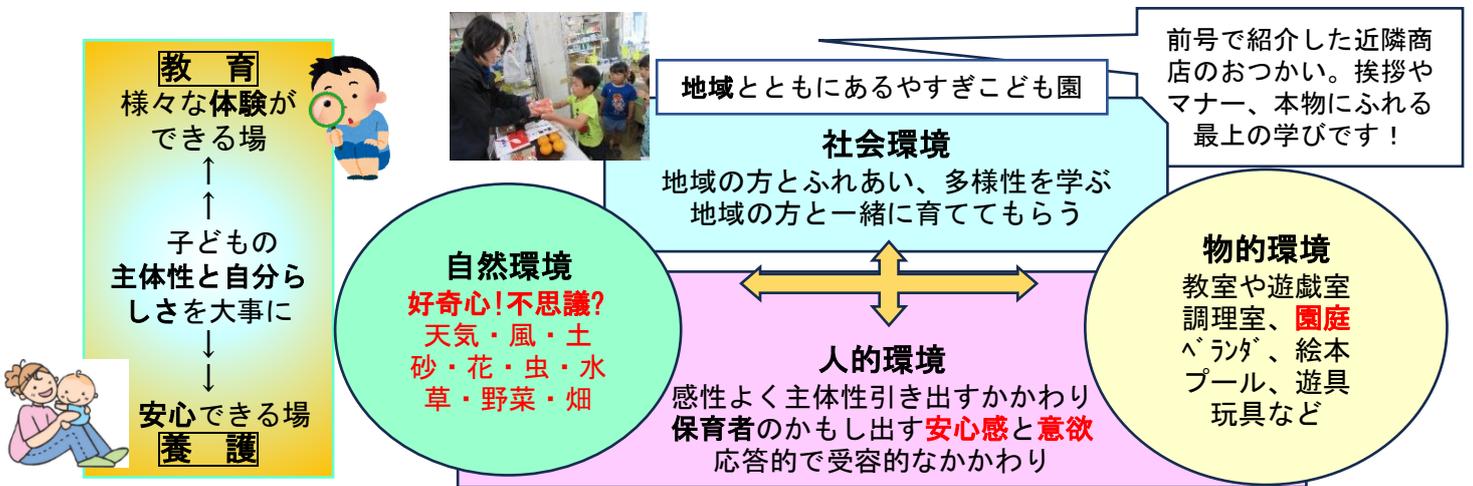
**保育というもの ～養護と教育が一体となって豊かな人間性を育成します～**

こども園で行っている保育とは具体的にどんなことでしょうか。それは、人間形成の土台となる乳幼児期に、**養護**と**教育**が一体となって、豊かな人間性をもった子どもを育成することです。

保育における「**養護**」とは、子どもが心身ともに心地よいと感じる環境を整え、子どもの状況に応じて個々が主体的に育つよう、保育者の寄り添い安心感のもとで援助する営みです。

もう一方の、保育における「**教育**」とは、その子どもの主体的で様々な体験や経験を通して、感情の動き、人との関係、達成感、自我や自分らしさの育ち、態度や言葉の育ち、運動能力の獲得などを育てていくような、より豊かに活動が展開されるための援助とされています。

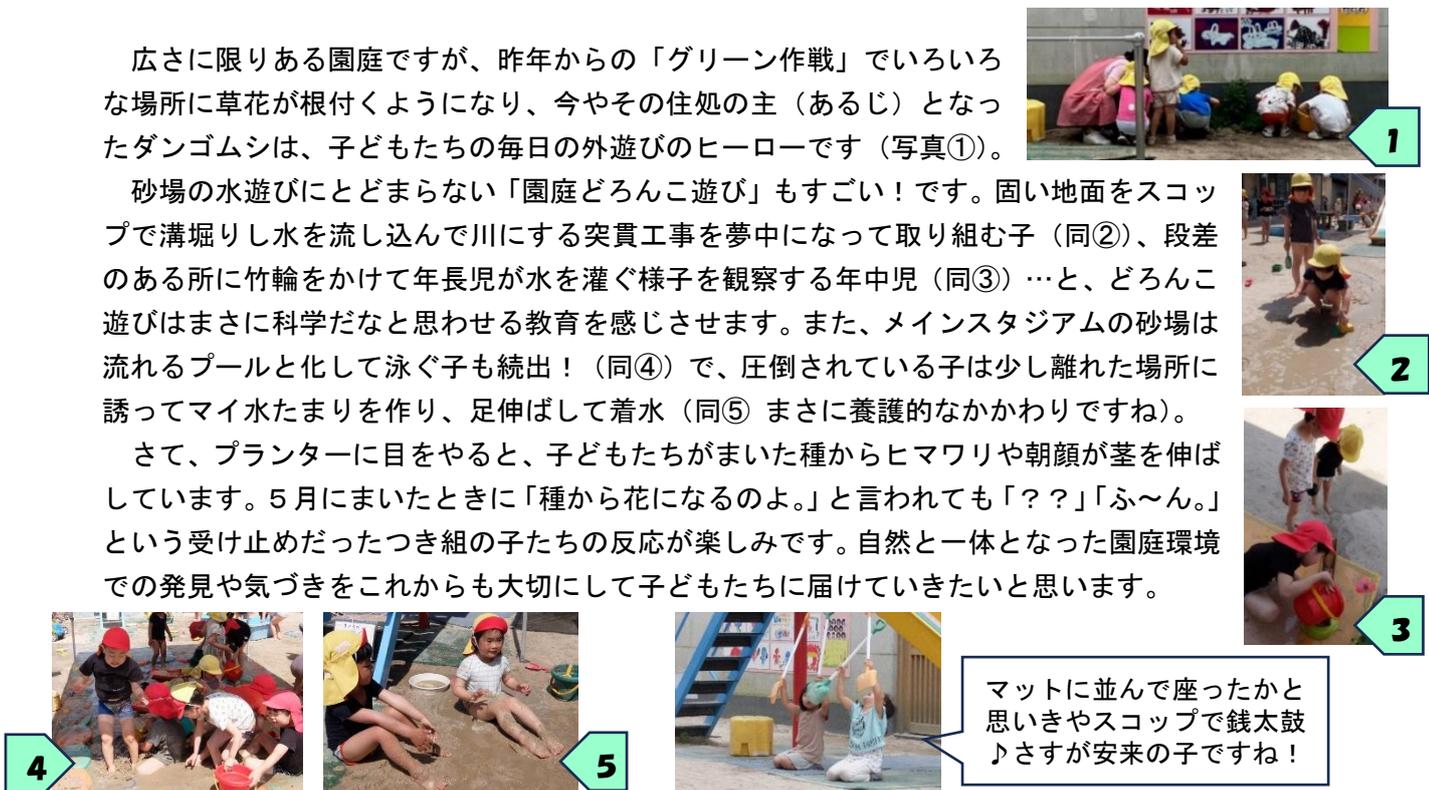
そうした活動を展開するために、こども園では「人的環境」「物的環境」「自然環境」「社会環境」の4つの環境を相互に関連させています。養護と教育の一体的な関係（左図）と合わせて、うちの園に照らし合わせた4つの環境の関連の様子を図面にしてみました（右図）。その中で、園庭と自然環境にふれます。園での様子を想像しながら眺めていただければ幸いです。



広さに限りある園庭ですが、昨年からの「グリーン作戦」でいろいろな場所に草花が根付くようになり、今やその住処の主（あるじ）となったダンゴムシは、子どもたちの毎日の外遊びのヒーローです（写真①）。

砂場の水遊びにとどまらない「園庭どろんこ遊び」もすごい！です。固い地面をスコップで溝掘りし水を流し込んで川にする突貫工事を夢中になって取り組む子（同②）、段差のある所に竹輪をかけて年長児が水を灌ぐ様子を観察する年中児（同③）…と、どろんこ遊びはまさに科学だと思わせる教育を感じさせます。また、メインスタジアムの砂場は流れるプールと化して泳ぐ子も続出！（同④）で、圧倒されている子は少し離れた場所に誘ってマイ水たまりを作り、足伸ばして着水（同⑤）まさに養護的なかわりですね。

さて、プランターに目をやると、子どもたちがまいた種からヒマワリや朝顔が茎を伸ばしています。5月にまいたときに「種から花になるのよ。」と言われても「??」「ふ～ん。」という受け止めだったつき組の子たちの反応が楽しみです。自然と一体となった園庭環境での発見や気づきをこれからも大切にして子どもたちに届けていきたいと思えます。



園長の

ことば・子育て相談 7月15日（土）午後を予定しています  
ご希望の方は平日でも受けつけます

園長だよりバックナンバーはこちらです⇒

